

藤井甚太郎資料

古賀市指定文化財【歴史資料】平成26年4月23日指定



藤井甚太郎は明治16(1883)年3月25日、旧福岡藩士藤井一寛の長男として福岡市福岡区荒戸町(現福岡市中央区大手門3丁目)に生まれ、その後小野村谷山(現古賀市谷山)で成長しました。明治から昭和初期にかけて活躍した歴史学者で、明治維新史、立憲政治史の権威です。

古賀市教育委員会が所蔵する市指定文化財として指定された資料は858点あります。資料の大部分を占めるのは、藤井甚太郎本人に関するもので、福岡県立中学修猷館しゅうゆうかん在学中から東京帝国大学大学院在学中、明治35年~同44年までの書簡類からなります。これらは、彼の交友関係のみならず、研究生活の一端を示す貴重な資料でもあり、当時の風俗など生活の様子もうかがうことができます。

藤井甚太郎資料No.355(裏面に掲載)の木梨富雄書状に見られる「阿部利三之碑」あべとしざうのひの裏書筆^{あべとしざうのひ}の願は、この碑が古賀市薦野に現存していることから、甚太郎が郷土の教育界に残した足跡をたどるのに大変貴重な資料です。

阿部利三之碑 明治43年6月建立【本体180cm 台座150cm】

写真右

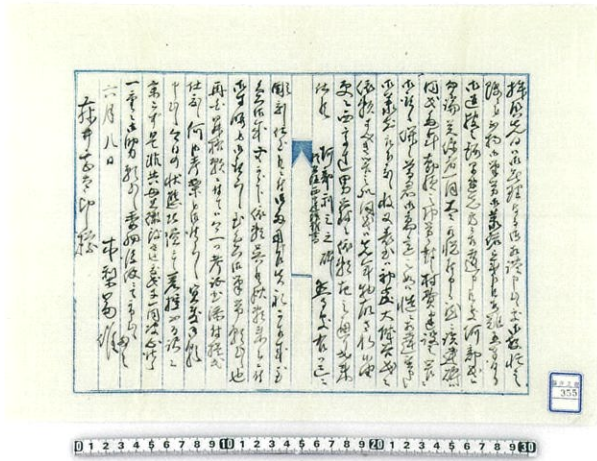
正五位男爵 西高辻信雅書 文学士 藤井甚太郎撰

【以下、碑文】

阿部先生名利三、以慶応三年生、於福岡県粕屋郡小野村薦野、明治二十年為本村小学教員尋任訓導、攝学務委員、三十三年兼校長四十二年以病罷職、家居樂道。先生在職二十余年、教人諄々不倦、以躬率衆、故子弟悦服父兄敬重、一郷之教化蔚然興焉。先生之罷園郷思慕不已謀胥 建碑表德先生之名於是乎、不朽下矣。余亦幼導先生董陶碑陰之不可辞。



阿部利三氏は小野小学校の初代校長を務めた人で、碑文は明治43年6月文学士藤井甚太郎撰とあることから、甚太郎27歳の時に寄せたものです。



木梨富雄書状内容と碑文の解説

資料No. 355 (写真左) には、村費で建設される「阿部利三之碑」に関して、藤井甚太郎が木梨富雄氏からの碑文筆労依頼を受諾したことのお礼と、そのことを阿部氏本人はもとより関係者一同大いに喜んだことが報告されています。碑の文章(表面に掲載)には、阿部先生が慶応3年に小野村薦野で生まれ、明治20年小野村で小学校教員となったことや、在職中の20余年心を込めて教育にあたり、村の教育環境を整え村民の厚い信頼を得たことなどが記されています。村を挙げて先生の徳を称えるために碑を建設し、先生の薫陶を受けた藤井甚太郎はその感謝の気持ちを文章にしたためたようです。



写真右は、藤井甚太郎資料の一部です。世情を表す絵葉書も多く残されています。



川島城山先生頌徳碑
大正9年10月建立【本体180cm 台座225cm】

また同じく薦野には「川島城山先生頌徳碑」も現存し、この碑文(大正9年7月維新史料編纂官藤井甚太郎撰)からも甚太郎と郷土とのかかわりが見てとれます。川島城山先生とは、明治35、6年ごろ糟屋郡立小学校准教員養成所の所長を務め教員養成に尽力した川嶋秀太郎氏のことで、大正4年には薦野夜学校舎跡に私塾城山校を開設し、(同校は川嶋秀太郎氏の病気により大正8年に閉校)多くの有能な人材を育成した人で、甚太郎も彼の教え子の一人でした。碑文に見られる大正9年は甚太郎37歳にして維新史料編纂官に任ぜられた直後のことで、仕事に充実した日々を過ごしていた時期に相違ありません。書状に見られる木梨富雄氏は、古賀市谷山の木梨宮司家の先祖で、当時城山校の教員の1人でもありました。郷土の教育関係者とのつながり、師弟関係が結んだ深い縁が感じられる事例です。

※石碑には「川島城山先生」とありますが、本名は川嶋秀太郎です。